

《担当者名》全指導教員

【概要】

専門分野にかかわる特定の研究課題を設定して、各研究分野の特論・演習・実習で修得した知識・技能を活かして研究を実践し、その成果を博士論文としてまとめる。

【学修目標】

・各研究分野の特論・演習・実習で修得した知識・技能を活かして課題研究を実践し、その成果を博士論文として作成できる。

【学修内容】

| 回 | テーマ  | 授業内容および学修課題                        | 担当者    |
|---|------|------------------------------------|--------|
|   | 課題研究 | 生物活性天然物の全合成及び新規合成手法の開発             | 小林 健一  |
|   | 課題研究 | 簡便かつ効率的なインドール誘導体の合成手法の開発           | 山田 康司  |
|   | 課題研究 | 薬用植物の二次代謝化合物の生成メカニズムと機能解析          | 高上馬 希重 |
|   | 課題研究 | 放射性プローブを用いたがんの診断・治療薬剤の開発           | 北浦 廣剛  |
|   | 課題研究 | 酵素サイクリング法を組合わせた生体成分の超高感度検出に関する研究   | 吉村 昭毅  |
|   | 課題研究 | 生体内微量成分・医薬品の高性能分析の開発と臨床化学への応用      | 村井 毅   |
|   | 課題研究 | 合理的設計に基づく機能性核酸分子の合成と応用             | 佐藤 浩輔  |
|   | 課題研究 | 環境汚染物質の高次捕食生物への蓄積機構の解明と摂食による健康影響評価 | 小島 弘幸  |
|   | 課題研究 | 食品及び食品由来成分によるがん予防に関する研究            | 寺崎 将   |
|   | 課題研究 | ビタミンB6ならびにその誘導体の体内動態研究             | 小林 大祐  |
|   | 課題研究 | 神経変性疾患と内因性病態マーカーに関する研究             | 浜上 尚也  |
|   | 課題研究 | ウイルス性白血病の発症機構の解析                   | 大澤 宣明  |
|   | 課題研究 | 循環器及び消化管機能調節に関与するセロトニンの作用解明        | 町田 拓自  |
|   | 課題研究 | 心血管系疾患の病態解析と骨格筋細胞の機能についての基礎的検討     | 飯塚 健治  |
|   | 課題研究 | 情動行動に関する行動薬理学的・神経化学的・電気生理学的研究      | 泉 剛    |
|   | 課題研究 | 中枢神経細胞の電気的活動に及ぼす薬物作用に関する検討         | 大橋 敦子  |
|   | 課題研究 | 神経系と免疫系で働く分子機構の解明                  | 柳川 芳毅  |
|   | 課題研究 | 薬物の体内移行における薬物輸送担体の機能解析             | 小田 雅子  |
|   | 課題研究 | 医療ビッグデータ解析に基づく安全な薬物療法に関する研究        | 小林 道也  |

| 回 | テーマ  | 授業内容および学修課題               | 担当者   |
|---|------|---------------------------|-------|
|   | 課題研究 | 天然高分子のゲル化能を利用した製剤設計に関する研究 | 伊藤 邦彦 |
|   | 課題研究 | がん化学療法の有効性・安全性に関する臨床薬剤学研究 | 柴山 良彦 |
|   | 課題研究 | エネルギー代謝制御の分子メカニズムに関する研究   | 中川 勉  |
|   | 課題研究 | 医療の質と安全の向上を目指した戦略的臨床研究    | 平野 剛  |
|   | 課題研究 | がん細胞における低酸素応答の分子機構の解明     | 中川 宏治 |

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

研究態度及び課題研究到達度により総合的に評価する。